



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

プロバスだより

第186号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

編集・発行：情報委員会

POSITIVE AGING

2010～11年度テーマ 「遊び心・学ぶ心・奉仕の心」で、クラブは今年も進化します

第186回例会

日 時：平成 23 年 4 月 14 日(木) 11:30～13:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：65 名 出席率 94.2%

(会員総数 69 名、休会 0 名)

1. 開会 東山例会委員長の司会



開会にあたり、東日本大震災で亡くなられた大勢の方々のご冥福を祈って、全員で黙祷をささげたいと思います。黙祷。

2. 杉山会長挨拶



皆様こんにちは。会長挨拶の冒頭に、まずは、この度の東日本の巨大地震と大津波による多くの犠牲者に衷心よりお悔やみを申し上げますとともに、

数十万人に及んだ被災者の方々に心からお見舞いを申し上げます。

あの日の前日、3月10日、私たちは通常例会と生涯学習サロン第1週を終えて、大変幸せなひと時を過ごしたわけですが、一夜明けた翌11日の午後3時には、何と東日本の様相が一変してしまいました。ご案内のように、この度の東日本大震災の甚大な被害は、福島第一原発の事故と連動して今なお国民の不安をかき立てています。いま我が日本国は戦後最大のピンチにあるといっても過言ではないでしょう。そんな中で、天皇陛下は3月16日、ご心配の心情を国民へのおことばとして述べられましたが、私はこのラジオ放送を、計画停電中の薄灯りの中で聞いていました。そして、思いは反射的に昭和20年8月15日の、あ

の終戦を伝える昭和天皇の玉音放送に重なりました。人々の営みの全てを根こそぎ否定して過ぎ去っていった巨大地震と大津波、その後に残された風景は、まさしく66年前の東京大空襲のときの爪痕であり、広島、長崎、沖縄の惨状であり、そしてまた、一面焼け野原と化した八王子の町の姿そのものでした。

さてそこです。幸い被害を免れた私たちに今出来ることとして、私は個々人の活動とは別に、このクラブとして、支援の気持ちを何か一つの形に出来ないかと考えております。このことにつきましては、後ほど澤渡幹事から皆様にご説明とお願いを申し上げますのでご理解を賜れば幸いです。また併せて、実行中の生涯学習サロンが、計画停電などの影響から、例年通りの運営が不可能となり、多くの方々にご迷惑をお掛けすることとなりましたことにつきましても、澤渡幹事からご説明を申し上げますのでどうかご了解を賜りたいと存じます。

ときに、今回の大震災、加えて福島第一原発事故は、全ての国民に大きな驚き、恐怖とともに、又多くの教訓を残しました。一つには、人間も自然界の一物として、荒らぶる天地の営みには従うしかないという厳然たる事実、そして二つには、文明の発達、なかんづくテクノロジーの発達もたらす幸、不幸の割合は、常に背中合わせの50、50だということです。福島第一原発事故は、我々が満喫してきたオール電化の近代的な文化生活が、如何に大きな危険と背中合わせであったかを証明してみせました。制御不可能な「自然」と、制御出来ない「人工」の真っ只中で、「さーこれからどうする日本人」と、国民生活の在りようの原点が問われているとしか思えません。とある著名な歴史学者の書に、日本を歴史的なトレンドで

みれば、明治は 40 年をかけてこの国を世界の日本国に押し上げた。その後今度は、大正、昭和の 40 年をかけて先の大戦で日本国を滅ぼしてしまつた。そしてその後、今度は戦後の 40 年をかけて世界に冠たる経済大国日本を栄えさせた。この周期でいくと次の 40 年、つまり 2025 年頃に向かって日本は再び沈没していく運命にあるとのご託宣が載っております。いよいよ多難な時代を迎えて、まさしく日本人の英知が問われています。あらゆる場での議論の沸騰を期待したいと思います。

頑張れ日本！、我々プロバスクラブも元気を出して、しっかりと前を見据えて進んで行きたいものです。

さて先刻、被災地義援金活動に触れましたが、渋谷会員と岩島会員からも義援金活動の提案を頂いていますことを報告させていただきます。

3. バースデー報告



杉山会長から、4月のバースデー報告が行なわれた。

今月は、塩澤迪夫、佐々木研吾、熊田真瑜美の 3名の会員に池田ときえ会員手作りの美しいバースデーカードが贈呈された。

4. 幹事報告 澤渡幹事



大震災の発生後、理事会を 2 回開催し、当クラブの当面の運営について議論を重ねましたが、その関連 2 件、その他 3 件の報告を致します。

① 例会・生涯学習サロン：

- ・ 例会；4月の例会、5月の臨時総会・例会は当初予定通りに開催する。(計画停電がある場合には前日に連絡)
- ・ 生涯学習サロン；4月14日は当初予定通りに実施し、4月28日の野外サロンは中止とする。5月12日は当初予定を一部変

更して開催する。即ち、最初に、14:30～16:00 閉講特別講話「自分らしく生きるための老いじたく」、次に 16:00～16:50 閉講茶話会（コーヒーとケーキ付、会費 1,000 円）とする。

② 東日本大震災義援金のお願い

二つの窓口を設けて義援金を募集したい。

- ・ 東京八王子プロバスクラブとして；具体的には 4 月、5 月の例会に募金箱を設置するので会員の自由意志で拠出していただき、募金は八王子市に持ち込むこととしたい。
- ・ 生涯学習サロンとして；中止した 3 月 24 日分に相当する費用を募金に充当したい。ただし、一般参加者については同意していただいた方のみとし、プロバス会員は全員としたい。この募金は生涯学習サロンの記事を掲載していただいた読売新聞社に寄託したい。

③ 八王子南 RC の 25 周年記念事業は、当クラブからも多数の参加を予定していましたが中止になりました。

④ 市民健康の日（5 月 15 日）へ当会から理事および各委員会の副委員長に出席して頂くことになりました。

⑤ （特別会計）活動準備資金からの支出について；「宇宙の学校」の備品等の購入費用として、20 万円を拠出することとしたい。15 周年記念事業の剰余金約 26 万円は活動準備資金に組み入れましたが、その中から拠出することとし、プロバスの一般会計には影響させないものとします。本件は当会規約（プロバスだより 129 号参照）により、会員の承認が必要でありますので、本例会出席の皆様への承認をお願いします。（拍手）有難うございます。賛成多数で承認をされたことにさせていただきます。

5. 八王子「宇宙の学校」の現況報告（第一回）

下山・八王子「宇宙の学校」開設準備室長

室長職は大変名誉であり、やりがいを感じております。皆様のご協力を得て成功させ、東京八王子プロバスクラブの地域貢献の第二の柱にしたい所存です。



また先程の幹事報告で、クラブの活動準備資金から、「宇宙の学校」開設の準備資金を拠出して頂き、有難うございました。初期投資として、ブルーシート、作業台、はさみ

などの道具等に充てさせていただきます。

以下に、今日までの準備室としての活動の経過と成果を報告します。

準備室の打ち合わせは、2月から月1回のペースで行なっています。メンバーは吉田信夫会員を副準備室長として、杉山会長、佐々木副会長、澤渡幹事兼準備室事務局長、荒会員、岩島会員、岡本会員、馬場会員それに私です。

1：実行組織（案）

官民共同事業とする、

主催：八王子「宇宙の学校」実行委員会（新設予定）。

共催：NPO法人「子ども、宇宙、未来の会」
KU-MA

JAXA宇宙教育センター

（参考）実行委員会メンバー（案）：現在アプローチ中の部門を含む

東京八王子プロバスクラブ

八王子市

八王子市教育委員会（主管子ども科学館）

大学コンソーシアム八王子

八王子商工会議所

八王子テレメディア

学識経験者（KU-MA講師、ほか）

東京八王子南ロータリークラブ

2：運営本部（案）

実行委員会の下で、実務を担当する組織です。プロバスクラブ会員が中心になり運営に当たります。

八王子子ども科学館の大きな協力を得ることになっており、大学生の協力を募ることも基本の方針です。

3：八王子「宇宙の学校」後援会

人的、費用的な後援組織を作り、開催の経費と人的サービスを提供します。

下記の3-1、3-2は既にアプローチを開始

しています。

3-1；特別協賛会員：やや大きい活動費用を負担してもらおう企業、団体。

3-2；維持会員：継続して後援して頂ける企業・団体（例えば一口1万円）

3-3；個人会員：個人後援会員（例えば一口2,000円）。プロバスクラブ会員は宇宙の学校の主務団体のメンバーとして積極参加を期待。一般市民の参加も歓迎。

4：初年度開催案

会場と日程の案は作成済みです。10月23日、子ども科学館を会場としてスタートします。11月、12月、1月にスクーリングを3回実施します（会場は八王子教育センターを予定）。

5：「宇宙の学校」に取り組む意義

私自身、子どもの心に火をつけることに興味があります。日本からハーバード大学等への留学生はとてまなくなり（因みに中国や韓国の留学生は3桁です）、一方では子供の理科離れが進んでいると聞きます。数年先、世界の各界指導者の仲間に入る日本人はいなくなり、ノーベル賞はアジアでは中国・韓国等の独壇場となるかもしれません。

日本では子どもの心を萎縮させるものがあり、火をつけるどころか水をかけているのではないか、と思えてなりません。

新年会での川博士は、「宇宙の学校」で子どもたちの心、その中でも特に

・潜んでいる**好奇心**

・わき出る**冒険心**

・少しでも良い工夫をしたい**匠のこころ**

に火をつけようと言われました。これには大いに共感しました。しかもその土台は「いのちの大切さ」であると断言されました。

「宇宙」は謎に満ちており。**好奇心**や**冒険心**をかき立てます、しかし宇宙ではほんの小さなミスでも許されません。宇宙の探索は常に細心の注意を持ちながら、多くの人協力しなければなりません。これこそ**匠のこころ**です。

宇宙の探索は人類の夢そのものです。太陽系以外の惑星の発見は、昨年10月には493個でしたが今年の2月には1,235個になり、その内54個

の温度は水が液体で存在できる範囲にあると判明しています。さらにその内5個は地球と大きさが似ているそうです。また、「いとかわ」による小惑星探査もありました。なぜそんな事を研究するのでしょうか、好奇心からです。また、そして何よりも地球に在る**生命のかけがえのなさ**を知りたいからです。

「宇宙の学校」では、身近な材料で、親子で協力して調べたり、作ったりします。家族の絆を強め、子供の心に火をつける地域活性化の運動です。

当クラブの皆さんと共に、子どもの心に火をつける活動が出来る事は、私として真に喜びとするところです。ぜひ今後ともご協力をお願いします。

6. 委員会報告

(1)例会委員会 東山委員長

出席状況報告（前記のとおり）。

(2)情報委員会 吉田委員長



①「プロバスだより第185号」をお届けします。本月号の編集は、宮田正実会員です。

②生涯学習サロンの抄録について；3月24日予定のサロンは中止になりましたが、その内容は

「サロンのお誘い」に記載してあるレジメを抄録に載せるつもりです。もし変更があれば4月末までに修正版を私までお届けください。

(3)会員委員会 川村委員長



会員数70名を目途に努力してまいりましたが、現在69名にとどまっています。会員各位には会員候補の推薦を是非ともよろしくをお願いします。

(4)研修委員会 土井委員長

特になし。

(5)地域奉仕委員会 下田委員長



①大震災によるサロンの中止（3月24日）やサヨナラ・パーティーの変更により、話し手の皆様やシニアダンディーズのメンバーにはご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。

②第1週のサロンには、計144名（プロバス会員63名＋一般会員81名）の参加があり、盛会裏に実施できました。翌日の大震災発生を考えると大いなる感慨を感じざるを得ません。

(6)交流担当 山崎理事



4月8日に横浜プロバスクラブ10周年記念式典に、会長・副会長・幹事と私の4名が出席しました。式典開催の是非を議論したが、将来を見据えて敢えて開催を決意されたそうです。

7. 同好会報告

(1)お茶の会；4月26日に例会を行います。ここで、3月24日のサロンで披露する予定であったお茶の道具をお見せすることになっています。

(2)ゴルフ同好会；第20回コンペを平成23年4月12日(火)、オリンピックCCにて10名の参加者で開催しました。当日は天候にも恵まれ、桜満開の中、春うららで楽しくプレーすることが出来ました。平成22年は、年3回（春・夏・秋）の予定が、天候不良の為にすべて中止になり、誠に残念でした。今年こそはと幹事団も張り切ってい



ましたところ、不幸にもあの震災にぶつかってしまいました。

ゴルフどころじゃないという雰囲気の中、開催

するには幹事も大変勇気を要したことと思われまます。例え少ない人数でも継続することが大切です！会員相互の交流を深め、日常活動の活性化の為に、そして元気一番！ゴルフを楽しみましょう。

成績 優勝 小林時雄、準優勝 米林伸恭、3位 田中信昭、BB 中野義光、

初参加者は河合和郎、寺田昌幸、田中信昭の3氏。次回は6月下旬を予定しますので、一人の欠席もない様にご参加ください。（記：小林時雄）

(3)歴史の会；特になし

(4)写真の会；特になし

(5)囲碁の会；得になし

(6)麻雀クラブ；3月15日（火）は中止しましたが、すこしでも世の中が元気になることを願って次回は4月19日（火）13時から開催します。

8. その他報告

(1)本の紹介；杉山会長から、河田恵昭著「津波災害—減災社会を築く」（岩波新書）について、五百旗頭 真氏（防衛大学校長）の書評とともに紹介がありました。この本は、2010年12月17日発行、書評は毎日新聞に2011年1月23日に掲載されており、今回の大震災と鑑み、言い知れぬ



因縁を感じるとの思いを込めた紹介でした。

(2)語りと音楽の会の紹介；武田洋一郎会員から「ともだちや」（第9回公演—5月14日・興岳寺）の紹介がありました。

(3)渋谷文雄会員からの緊急提言；今回の大震災に関して二つの提案をするので検討して欲しい。



①原発事故の現場対応者への支援に大きな欠陥がある。プロバスクラブとして現場で苦勞している人々への支援を行うべきである。

②生涯学習サロンの閉講式およびさよならパーティを止めるのは反対である。自粛自粛では日本が立ち行かない。むしろ被災した各県の特産物品（酒、魚、肉、野菜等）を取り寄せて盛大に支援の思いを込めたパーティをやることを提案する。

⇒ 本件については杉山会長から“夢を語り、理想を実現するには、ビジョン、概念、シナリオとシンボルが必要である”との前置きの下に次のコメントがありました。

① について；原発事故の現場対応者への思いは我々も同じであります。一方実情を見ると、現場で苦勞されている人々と我々との間は直接のやり取りは不可能、かつ巨大な組織（官邸、東電、業界企業、関連企業等）が動いており、ご提案の趣旨に沿う行動は取れないという現実があります。世論も巨大な組織も現場の苦勞に気づき対応を深めようとして、具体的な動きが始まっていますのでそれを頼み

としたいと思えます。

② について；先ず、サロンの閉講までの段取りはすでに手当て済みであり、今からの変更は難しいということをご理解いただきたい。6月例会の後の懇親会に何ができるかについて検討してみたい。

9. 大震災義援金の提起

◆これはアンハッピーコインです。

3月11日、東北地方を中心にした大地震で亡くなられた人の無念さはもとより、生き残った人達も、長い人生を賭けて営々と蓄積してきた家屋も財産も一瞬にして失ってしまいました。できれば八王子プロバスクラブの名において僅かでも義援金をお届けしたいと願って3万円を申告します。次の例会までに同調の士の多からん事を切に祈ります。 渋谷文雄

◆ ハッピーコインの主旨と違いますが、この度の『東北関東大震災の被災者』への復興支援金として、八王子プロバスクラブの名においてお届けいただければ幸甚です。 岩島 寛

10. プロバスソング斉唱

11. 閉会の挨拶 佐々木研吾副会長



地震後の最初の例会が、高い出席率で開催されたことは素晴らしいことです。

この大震災の損失は、政府の試算（企業の仕掛品や個人の家財の損失、原発事故による農業・漁業の被害等は含まれていない）によると16～25兆円という巨額に達するそうです。これは、我が国のGDPの約5%に相当します。

私は盛岡に勤務したことがあり、東北地方各地の思い出も多く、今回の震災はとても他人事とは思えません。過去の経験から、地震に対してギネスブックにも登録されるほどの防潮堤を含め、相当な備えを行っていたにも拘らず、あのような被害を蒙ってしまった訳ですが、千年に一度の大地震への備えをどうするのか、防潮堤だけではなくダム等を含めて大きな課題です。

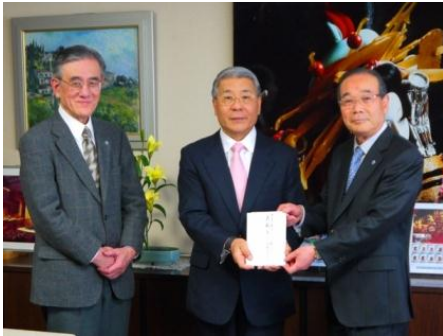
本日の学習サロンの私の担当講座の中で、地震について素人の立場で考えてみたいと思えます。

最後に、義援金へのご協力をお願いします。

この会が益々良い方向に向かうこと、皆様が次回もお元気で出席されますことを願っています。

東日本大震災義援金のお届け

4月例会時に、会員の皆様からご支援を頂きました



した東日本大震災の義援金に加え、会としてとりまとめ、40万円を4月20日(水)杉山会長から、八王子黒須隆

一市長にお届けしました。現地で被災に逢われた方々は、これからも長く大変な生活が続きます。今後共一層のご支援の程、お願いいたします。

投 稿

平城遷都1300年祭と正倉院展をみて(その2)

高取和郎

(第185号からつづく)

翌日は正倉院展へ向かいます。朝9時30分奈

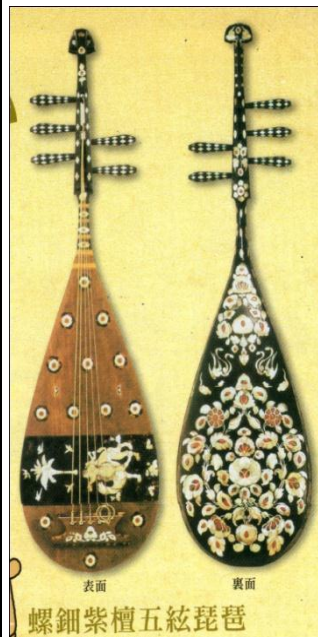


奈良国立博物館 正倉院展入口

良国立博物館に着き、長い時間待たされると覚悟していたのですが早い時間のためか15分ほどで入場できました。

正倉院とは奈良時代、寺院に「正倉」という倉庫が建てられ正倉が集まったところが「正倉院」

とのこと。まず、「大仏開眼会と東大寺の法要」の部屋へ入り、大仏開眼法要会で用いられた伎楽面の酔胡王・迦楼羅(カワ)などの面があり、酔胡王の面は酒を飲んで酔った胡人(中央から西のアジアの人)、迦楼羅はインドの古代神話の霊鳥を象った面で、未だ色彩が良く残っています。(内部は撮影禁止で写真がありません)。展示品は聖武天皇・光明皇后の遺品が多くあります。その中で、展示品の目玉の聖武天皇遺品としてこの正倉



院展を代表する「螺鈿紫檀五絃琵琶」(左の写真)がありました。

無反射ガラスのケースに入り、全長108.1cmで思っていたより小さく見えました。現存する五



正倉院展ガイドMAPより

絃琵琶としては世界で一つの貴重な品とのこと。琵琶の背面(写真右)は紫檀の一材でヤコウガイの螺鈿とタイマイを使った唐花文と含綬鳥などをあしらった見事な作品で、正面(写真左)は、ヤコウガイを使ってフタコブラクダに乗り琵琶を演奏する人を描いて、当時の技術の素晴らしさを改めて感じました。その他、大きな銀壺、鑿で線彫り騎馬像と動物が彫り込まれています。

そして私にとって見たいものの一つで、生薬が展示されています。聖武天皇の七七忌の時、光明皇后が60種の薬を納めた目録の「種々薬帳」に記載された薬の一つで「五色龍齒」(上右の写真)です。これは、ナウマン象の歯の化石で色々な色が見えることから「五色」と言われていて、鎮静などの薬効があります。種々薬帳に龍齒とともに記載されている竜骨は、現在でも使用され、「柴

胡加竜骨牡蠣湯、「桂枝加竜骨牡蠣湯」などに使われています。現在、竜骨は 中国、四川省で採取され、輸入されています。昔は恐竜の化石と思われていましたが、新世紀の哺乳動物の骨の化石と知られています。



大黃 正倉院展目録より

上図の生薬は大黃で、現在の漢方薬に使用されています。大黃は「ダイオウ末」と、下剤として保健薬にも薬価収載されていて、また、漢方にも「大黃甘草湯」などに使用され汎用されています。その他治葛(ヤカツ)が展示されていました。

治葛は猛毒を持った薬草で原産地は東南アジアから中国南部で採取され「胡蔓籐(コマツリ)などといわれ、皮膚疾患、外用剤などに用いられたようですが、毒性が強いため現在では用いられていません。

聖武天皇・光明皇后ゆかりの品が 1300 年を経て、71 件の品が出展され見ごたえのある展示会です。(おわり)

1368×2

池田 ときえ



知人のお見舞いで高松に行ってきました。岡山生まれの夫の希望で児島で一泊、おだやかな海を眺めながら瀬戸大橋で高松入り。

お見舞いをすませた翌日、ついでとってはなんです、こんぴら参りをしました。十年前の初参りでは本宮までだったので、今回は奥の院に挑戦です。奥社の天井に神椿のタイル画が奉納されたと

聞いていたので、その拝観も楽しみです。

杖に頼るとかえってあぶないという夫の言葉に従って自力で一段ずつ登ります。身軽な子どもや若い人にどんどん追い越されますが、年寄りには年寄りらしく石碑があれば立ち止り、ベンチがあれば腰かけてゆっくりと前進です。大門の手前に資生堂パーラーができてびっくり。鮭図で有名な高橋由一の学芸館が新しくなっている。ひざが笑い始めたあたりで琴比羅本宮に到着、ほっとする。お天気上々、讃岐平野の真ん中にかわいらしい讃岐富士。善男善女に紛れてハッピーコインを2枚献上、プロバスのみなさんのご健勝を祈りましたからきっといいことありますよ。

奥社への参道は人影少なく山道の趣き、木洩れ陽があたたかです。途中の白峰神社でひと休み。おみくじ引いたらなんと大吉！ 気をよくして又歩き出す。こんどは膝が棒になった頃ようやく奥社に着きました。あっけない程こじんまりしたお社です。見上げる崖の中腹に、天狗とからす天狗の面があり高尾山を思い出す。社務所に大きく「ここまで 1368 段」とありました。やったぜベイビー1368！ でもでも、ということはまた 1368 段降りるのね。顔を見合わせ、呼吸を整え、覚悟する。下りは案外楽でした。外さぬように転ばぬように、足元だけ見てよそ見雑念一切なし。不遜にも修行の心境とはこういうものかと思いました。無事平地について金丸座への道すがら神椿を見るのをわすれたことに気づく。またこんどがあるかどうか・・・残念です。

運動音痴で運動不足の私ですが、マイペースで時間をかけたら 1368×2 が出来ました。高松のお土産は讃岐うどんと、この達成感、しばらくは元気で遊べるような気がします。

雑感

大高 秀夫



この2年間、自治会の役員を務めてきた。この間に様々なことを見聞きし、自治会とはどう有るべきなのかとか、個人的な問題にどこまで介入していいのか等、考えさせられること

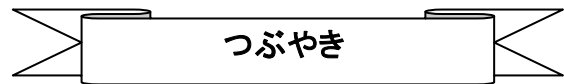
が多かった。転居して間もなくだったので外面だけしか見えていなかったが、中に入ってみるといろんな事が見えてきた。

なかでも特に気になったのは高齢化の問題だった。この自治会は400世帯で構成されているが、住民のなかに後期高齢者が110名ということで、この数字が多いのか少ないのかは何ともいえないが、こども会のメンバーは32名と極めて少なくなっている。ここは住宅供給公社が開発した住宅地で、当初は子育て最中の年代の方々が入居したのだが25年も経過すると子供たちは独立して、高齢者だけが残ってしまったという感じだ。所謂核家族現象が如実に現れてきている。

この住宅にはコンビニは無いし、スーパーは3軒あるがどれも2キロ以上と遠くて、しかも住宅は高台にあるので、買い物をして荷物を持って坂道を登って来ることは高齢者にとっては至難のことで、つまり買物難民という現象が発生してくる。先日の役員会でも話題になったのだが、高齢者の一人住まいや夫婦共に高齢者の方達を対象に、“スーパー買い物シャトルバス”を運行したらどうかと言う事を真剣に話し合ったこともある。しかし現在の自治会の力量では難しい問題山積で、とても不可能な状況であることも分かった。

またこんなこともあった。昨年のことだが私の家のはす向かいの家の主人の姿が見えないなど思って、奥さんに聞いてみたところ先月亡くなりましたということだった。昔から「向こう三軒両隣り」と言われて来たが、そんな言葉は既に死語となってしまったのだろうか。役員会でこの話をしたら、そんなことは日常茶飯事で、あそこのお宅も、〇〇さんのところもそうだったと言われてしまった。こんな状況では自治会の活動も思うようにいかないのも無理はないと思った。市内のある町会では全住民の50%以上が高齢者というところもあるそうで、少子高齢化社会は益々深刻な問題となってきている。行政としてもどこまで支援すべきか難しいところで、高齢者支援セミナーへ行って話を聞いても、家に籠らず元気に過ごして頂くよう努力していただきたい。そういう面では出来るだけの支援をしていきたいということだった。

とりとめの無い事を並べてしまったが、最終的には自分のことは自分で始末をしなければならないということだと思う。私もそれなりの年齢になったので、何時何処で誰のお世話になるかもしれないが、所宣人間は一人で生きて行かれるはずも無く、周りの沢山の方々に支えられ生かされていることに感謝して……



● 世に平均余命表がある。現在70歳で男性15年、女性19年とある。現役100歳の御仁にもまだ2年少々の余命がある。何時までも「凜として」前を向いて進みたい。(TS)

● 杞憂であることを願って

「だんなさん山サきのご採りにいえくんすか」「んだ、いぐんしおうの」「クマサイねべが」「しんべええらね、クマ、山にいねえど。じえんごに」家人がキノコを採って送ってくれるという知人と電話をしていた。最近、クマやサル、イノシシなどの人里への出没が頻繁に報じられている。天候異常で山に彼らの食糧が少ないのが理由とされているが、環境の変化が大きな要因と思われる。置き換えて、私達、食べ物の60%余を他国に頼っているということは？ 隣国とのトラブルによって経済的な打撃を受けている現状を思うにつけ、これが食糧であってもおかしくない話だとも思っている。世界的な規模の気象異変もある。遠国での飢餓の話も耳にする。環境は不変ではない。自給自足の術もないままに飽食に慣れきっている時代をどう考えればいいのか。とって自分に何が出来るのかの答えも出ない。杞憂であることを願っている。(SI)

編集後記：震災被災者の気丈さには頭が下がり、勇気も与えられます。今となつては、この災害が日本人に覚悟を決めさせ、モラルとモラルの向上に資することを期待します。

2度目の編集だが、改めて偶数ページに収めることの難しさを痛感。 馬場 征彦